

## 校長の報告きっかけに

# 栗東と大商が職員会議で反論

## 「手みやげ」に署名109筆(合計287筆):大商

15日夕方、大商支部長が高教組本部に立ち寄り「手みやげ」をもって来ました。未組合員を含む46人の教職員が署名した109筆分の綴りです。

支部長はニコニコしながら報告します。

8日の職員会議で、統廃合について県から説明を受けた(2日の校長会)校長が、通り一遍の話をしました。その説明がおかしいと思ったので、支部長は反論しながら説明したそうです。「少人数小規模では切磋琢磨できないと言うが、少人数の方が丁寧に接することができて、子どもは育つ。県の言い分は、学校現場の実態を踏まえていない」など。この話を、教職員が真剣に聞いていました。それまで、あまり話題にならなかった統廃合のことが、教職員の関心事になっていったようです。「やっぱり議論が大事だと思う」と振り返る、ちょっと誇らしげな支部長でした。

職員会議で校長が統廃合の話をすると思った支部長は、事前に、統廃合の問題点が解説してある文章などの資料と署名用紙を、休み時間中に全教職員の机の上に置きました。職員会議での討論をきっかけに、この署名用紙に氏名と住所が埋まっていきました。

## 職員会議での反対意見 県へ上げるよう要望:栗東



栗東では、8日の職員会議で、「県民の意見を聴く会」での県教委の資料と、その会で出された意見のまとめが配布されました。それをもとに、校長が説明しました。多くの問題点を感じた書記長は、10分程度、詳しく反論的な説明を行い、職員会議で反対意見が出たことを県に上げるよう校長に要望しました。次の朝、書記長は高教組作成のA3チラシを全教職員の机の上に配付して、「昨日喋ったことがここに載っています」と。翌々朝には、増刷りした署名用紙を配布し、63筆があつまりました。

## 職員会議で統廃合の討論を 一気に署名を

「地域から学校がなくなる」という大事な問題。職員会議での討論は、なかなかできませんが、当然すべき大事なことです。それは、教職員が、子どもや学校に責任をもっている証です。何も知らないまま、意思表示をしないまま統廃合が実施されるとすれば、教職員は、その責任が問われることとなります。

高教組は、この統廃合問題を、職員会議やPTAの会議で討論したり、意思表示することを呼びかけています。教職員のまじめな討論は、生徒も地域住民も期待しており、誰も阻むことはできません。討論すれば、おのずと結論が出てきます。



24日10時

第一次署名提出

ただ今8,388筆

高校統廃合はストップせよ

速報 第13号 2010/09/22 発行: 滋賀高教組

(増し刷りして全教職員に配布し、また掲示板に貼るなどして下さい)